

6 病害虫診断依頼結果

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
1月8日	いちご	鹿沼市	一部の葉がふ入りになり、症状の激しい葉は萎縮する。花や果実には異常は見られない。数年前から発生が見られ、春先には目立たなくなる。	クラウン部に褐変等は見られない。生理障害の可能性が高いと考えられた。
1月8日	ニラ	上三川町	下葉がとろける症状が見られる。若干のネダニ寄生は見られるが、極めて少ない状況である。地際部の症状や下葉の腐敗症状から黒腐菌核病が疑われるが菌核は見られない。	菌核は見られないが、症状等から黒腐菌核病であると診断。なお、バルブの一部に軽微な褐変が見られ、定法による組織分離では、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明。
1月10日	ニラ (ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	株の腐敗や葉のトロケ症状が見られる。	地際部に黒色の小菌核が見られることから、黒腐菌核病と診断。なお、バルブの一部に軽微な褐変が見られ、定法による組織分離では、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離されるが本症状との因果関係は不明。
1月10日	トマト(麗容)	さくら市	ほ場の2~3畝で30株程度、萎凋症状が見られる。維管束の褐変は見られないが、根の断面には、若干の褐変が見られる。	定法により、根の褐変部分を組織分離すると <i>Fusarium</i> 属菌が分離されるが本症状の原因菌であるかどうか不明。
1月15日	トマト(麗容)	小山市	連続して8~10株に、全身の葉に斑(細かで不鮮明な黄斑)が発生している(苦土欠とは異なる)。合計50本が、黄色の斑症状。黄化葉巻や黄化病とも異なる症状。株の萎れ、根や維管束の褐変は見られない。	トマトで想定されるウイルス等の確認をイムノクロマト法及びRT-PCRで行ったが何も検出されなかった。根の一部(中心)にわずかな褐変が見られたため定法による組織分離を行ったが病原菌等は分離されなかった。生理障害によるものと診断。
1月15日	ハウス桃太郎(自根)	高根沢町	ほ場内で数株、青枯症状の株が見られる。地際部がややくびれて褐変し維管束の褐変も見られる。	組織分離の結果、 <i>Rhizoctonia</i> 属菌が高率に分離された。株腐病と診断。
1月17日	ニラ(グリーンロード)	鹿沼市	葉先枯れが見られる。発生場所はハウスサイドが多い	病徴等は認められない。特にハウスサイドでの発生が多いことから、低温による葉先枯れであると診断。
1月17日	ニラ(ミラクルグリーンベルト)	日光市	株の腐敗や葉のトロケ症状が見られる。	地際部に黒色の小菌核が見られることから、黒腐菌核病と診断。なお、ネダニの寄生も見られる。
1月20日	ニラ(ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	15-20cm伸びたころから、腐敗臭と株のわい化が始まってきた。葉先からの黄化も発生している。昨年と同様に発生し、フザリウム菌による乾腐病と農試で診断された。	鱗片基部(根のつけね)に褐変が見られ、定法による組織分離を行った結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離される。ニラ乾腐病と診断。
1月23日	輪キク(神馬)	栃木市	株のわい化症状。わい化株では部分的に葉のモザイク症状(黄化)が見られる。ほ場内で発生に偏りは無く点在。	診断キットを用いてCSVdを検定した結果、感染は認められなかった。RT-PCRの結果、 <i>Carlavirus</i> 属、 <i>Cucumovirus</i> 属に特異的な増幅は認められなかった。
1月31日	しゅんぎく(さとあきら)	真岡市	株の萎れ症状が見られる。根および維管束は褐変。ほ場内で点在しているが、畝伝いに連続して発生している箇所も見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離されたため、萎凋病と診断。
2月6日	ニラ(ミラクルグリーンベルト)	真岡市	株元のトロケが見られる。バルブの中心部がわずかに褐変。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離されたため、ニラ乾腐病と診断。
2月6日	ニラ(ミラクルグリーンベルト)	茂木町	株元の腐敗、トロケが見られる。バルブ等の褐変は見られず。	地際部に黒色の小菌核が見られることから、ニラ黒腐菌核病と診断。
2月7日	トマト(マイロック)	栃木市	葉先が紫色に変色、新葉では症状見られないが株全体で症状が見られる。畝の端(ハウス中央通路側)で1株のみ。	イムノストリップ(CMV)は陰性。RT-PCRの結果では、 <i>Potyvirus</i> 属についても陰性。生理障害によるものと診断。
2月13日	いちご(スカイベリー)	佐野市	1月にかすり状の症状が散見され、2月になり少し増えた。葉の裏をみると、ヨコバイのような虫と幼虫が多く見られた。	シロズヒメヨコバイと診断。

2月19日	トマト(麗容+がんばる根3号)	鹿沼市	株の萎凋症状。発生はほ場内で1本だけ。地上部の導管と根部に褐変、地際部表面に白色菌糸が認められる。根部表面に菌核が見られる。	菌核、症状から菌核病と診断。
2月28日	トマト(ハウス桃太郎)	さくら市	株全体の萎れ、特に下位葉の萎れが顕著。根～地際の導管は激しく褐変、ほ場全体の株が萎れ傾向。養液栽培。	イムノストリップ(Rs)は陰性。褐変部位を組織分離した結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が分離され、トマト萎凋病と診断。
3月3日	きゅうり(マジカル2号)	下野市	上位葉の奇形、モザイク症状。発生に偏りは無く、ほ場全体内の約50%の株で症状が見られ、定植直前から怪しい株があった。	PCRの結果、MYSVIに特異的な増幅が認められ、CMV、ZYMV等の他のウイルスは検出されなかった。キュウリ黄化えそ病と診断。
3月3日	トマト	上三川町	中位葉の一部が葉脈に沿って白変。上位葉では症状は見られない。発生はハウス内で局在(谷部分)。	検鏡の結果、細菌や糸状菌は確認されず、発生状況等から葉害の可能性が考えられた。
3月4日	いちご	宇都宮市	株の萎縮。新葉の奇形は不明瞭。クラウン部導管の褐変。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ萎黄病と診断。
3月5日	きゅうり(クレセント節なり)	大田原市	定植前にアザミウマ類が大発生し、その後株全体に退緑、えそ斑点が見られる。黄化えそ病の疑い。	PCRの結果、MYSVIに特異的な増幅が認められ、CMV、ZYMV等の他のウイルスは検出されなかった。キュウリ黄化えそ病と診断。
3月28日	きく(セイエルザ)	塩谷町	葉のしおれや枯れがベッド上全体的に見られる。根、地際の茎内が褐変・腐敗。同ほ場の他品種は症状なし。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。また、センチュウが多く見られた。主因がどちらかは不明。
4月3日	なす(半促成)	喜連川町	ハウス内の一部で萎れ症状が見られる。維管束に軽微な褐変が見られる。	イムノストリップ(Phyt)陽性。定法により組織分離した結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。症状等からナス半枯病と診断。
4月4日	大麦		3月、葉の黄化、分けつ不足。 4月、草丈のばらつき、葉脈間の黄化	エライザによる検定で反応なし、縮萎縮ではないと診断(Mn欠の疑い、ひどいと出すくみやうどんこにかかりやすくなる、うどんこにかかると登熟が落ちたりする)
4月8日	なす(穂木:式部 台木:台三郎)	大田原市	晴れた日の日中に萎れる。ハウスにより発生の多少あり。根部の褐変が見られる。	イムノストリップ(Phyt)陽性。定法により組織分離した結果、 <i>Phytophthora</i> 属菌が高率に分離された。以上からナス根腐疫病と診断。
4月9日	かぼちゃ(ET2)	那須烏山市	葉の萎縮症状が見られる(100/1000苗)。発芽後の段階で少し生育の悪いものもあったが、萎縮症状と関係は不明。アブラムシ等害虫の発生なし。	イムノストリップ(CMV、ZYMV)陰性。経過観察により新葉については、症状の改善が見られたことから本症状は、生理障害と診断。
4月9日	なす(穂木:式部 台木:トルバム)	小山市	葉の萎れや葉巻き症状。新葉には発生は見られず、株全体で1、2葉程度の発生。6列のうち1列のみで、畝伝いに発生が見られたが、症状が回復した株もみられる。茎、根部、症状が見られた枝の維管束に明瞭な褐変は見られない。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。後日症状が回復していることから、病害の可能性は低いと判断。
4月9日	にら(ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	厳寒期(1番刈り)に葉のとろけ症状が見られ、3番刈りになると外葉にスジ状の黄化が見られる。鱗茎部に明瞭な褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。PCRの結果でも <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。症状からにら乾腐病と診断。
4月9日	にら(ミラクルグリーンベルト)	鹿沼市	発芽後に一部黄化が見られ、掘り上げると根が離脱している。ハウス内で点在発生。	組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。 <i>Pythium</i> 属菌による苗立枯れと診断。

4月10日	いちご (とちおとめ) 養液栽培	足利市	微量要素欠乏による黄化症状。根張りが悪く、褐変したり表面に白いカビが見られる。 培土は継続して使用しているが、これまでに萎縮株の発生は初めて。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。症状から、病害の可能性は低いと判断。
4月10日	いちご (とちおとめ)	足利市	3月から葉の黄化、生育不良、萎凋、一部枯死が見られる。育苗期から炭疽・萎黄病の発生が見られた。ハウス内で半分の株で症状が見られ、センチュウの疑いがある。	イムノストリップ(Phyt)陰性。 組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。萎凋症状株については炭疽病と診断。 併せてベルマン法によりセンチュウを分離・確認した結果、センチュウは殆ど確認されなかった。
4月11日	トマト (穂木: アニモTY-12、桃太郎ヨーク / 台木: 台本命)	日光市	葉の褐変、萎縮症状が見られる。 70/1140本くらい発生。	イムノストリップ(TSWV)で陽性。 トマト黄化えそ病と診断。
4月14日	いちご(親株) (とちおとめ)	下野市	葉の表面に黒い染み状 根およびクラウン部に目立った症状は見られない。クラウンに凍み症が見られる。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。外観症状や栽培状況等から病害の可能性は低いと判断。
4月17日	ミニトマト (アンジェレ)	野木町	葉かび病、すすかび病の確認。	検鏡の結果、葉かび病と診断。
4月22日	マーガレット	小山市	葉のえそ斑点。症状は下葉から上位にも進展している。症状が見られる株では健全株に比べて萎縮(生育不良)の傾向。4品種のうち1品種でのみ発生。	イムノストリップ(CMV、TSWV、INSV)陰性。 RT-PCRの結果、 <i>Potyvirus</i> 属、 <i>Favavirus</i> 属、 <i>Tombusvirus</i> 属、 <i>Tobamovirus</i> 属、 <i>Carlavirus</i> 属のウイルスは検出されなかった。
4月22日	水稻苗	芳賀町	出芽状況が悪いため土を掘ってみたところ、粒状培土の粒のまわりに白いものがかなり発生しており、カビを疑っている。 ただし、糞のまわりに付着している様子はあまりない。 その後、振興事務所で苗箱を預かり、育苗を続けていたところ、生育が回復してきた。 しかし、出芽状況が著しく悪い部分については、芽の伸長が抑制・停止しており、葉も針状によれている。	顕微鏡下で結晶のようなものを確認。カビではないと診断
4月22日	水稻苗	那珂川町	・芽と根の伸びが悪く、根は部分的に褐色に変色。 ・糞のまわりに白色および緑褐色の菌糸が付着。 ・症状は箱のなかで満遍なく全体に発生。 発芽機1つ分全体でほぼ均一に発生(約800枚)。下の方が比較的症状が重い。	検鏡で <i>Aspergillus</i> 属菌(コウジカビ)によるものと診断 アスペルギルスが原因というより高温なかにかで種糸が痛んだところに繁殖したと考えられる。
4月23日	リンドウ (るりおとめ)	宇都宮市	①斑点えそ症状、葉の黒ずみ ②退緑斑点、退緑輪紋( <i>Tospovirus</i> より小さい)	イムノストリップ(CMV、TSWV、INSV)は①、②ともに全て陰性。 RT-PCRの結果、①はBBWVに特異的な増幅が認められた。②は <i>Potyvirus</i> 、 <i>Favavirus</i> 、 <i>Tombusvirus</i> 、 <i>Tobamovirus</i> 、 <i>Tospovirus</i> 、 <i>Carlavirus</i> は検出されなかった。 ①はBBWVによるウイルス病、②はリンドウで未報告ウイルスの可能性。
4月23日	リンドウ (るりおとめ)	真岡市	①斑点、えそ症状、わい化 ②新葉の縮れ、モザイク症状	イムノストリップ(CMV、TSWV、INSV)の結果、①は全て陰性、②はCMVが陽性。 RT-PCRの結果、①はBBWVに特異的な増幅が認められた。 ①はBBWV、②はCMVによるウイルス病と診断。
4月24日	ズッキーニ (ゼルダ・ネロ)	鹿沼市	萎凋症状。根部の腐敗。 根部の腐敗が著しく、地際部の中心まで傷みが見られる。根部の大部分が離脱。	検鏡の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が確認された。 <i>Pythium</i> 属菌による根腐れと診断。

4月24日	スプレーキク (レサイバーピンク、イエロー)	塩谷町	生育不良、下葉から軽微な黄化。発生は例年同じほ場に限定され、発生場所は中央部のみで、症状が見られる品種も限られる。症状が見られる株では根部の離脱が目立ち、根量が少ない。根部の表面に糸状菌が見られる。	検鏡の結果、細根の表面に糸状菌が確認された。組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。いずれの菌も分離率は低く、病害以外の原因も考えられ、原因の特定には至らなかった。
4月30日	梨		ほ場で黒いハエのようなものがたくさん飛翔している。	写真からメスアカケバエと同定。
4月30日	トルコギキョウ	足利市	3月の暖かくなってきた頃から1品種だけ下葉が黄色くなり、4月上旬頃には葉が枯れてきた。他の品種には見られていない。また、本ハウスは青枯病が散見されており、プロポーズアクアをはじめ多くの品種で見られている。	根の断面に軽微な褐変が見られ、検鏡すると細菌の噴出が観察される。イムノストリップ検定結果からトルコギキョウ青枯病と診断。
4月30日	二条大麦	宇都宮市	ほ場内で広範囲に発生。穂の出すくみが発生	PCRにより大麦黒節病と診断
5月1日	コシヒカリ		育苗箱上にヤスデのような虫が多数這い上がってきている。食害は見られない。	ヤスデと診断。
5月1日	トマト 穂木:アノモTY-12、桃太郎ヨーク /台木:台本命	日光市	葉のえそ斑点、褐変、萎縮症状が見られる。 13/40本くらい発生。	イムノストリップ(TSWV)で陽性。トマト黄化えそ病と診断。
5月1日	水稻苗	小山市	局所的に床土が黒くなっており、根張りが悪い。発生が見られるのは、ハウス一番奥の、最初に播種したコシヒカリのみ。(あさひの夢では見られない)	水の還元状態が続いたため根が傷み、二次的に水カビのようなものが発生。水を定期的に替えたところカビも消え正常な生育に戻った。
5月1日	トマト (桃太郎プレミアム)	宇都宮市	葉先の枯れ、黄化。葉巻症状。維管束が褐変あり。一部の髓部で粉状の症状が見られる。 ほ場内で15本程度発生。	イムノストリップ(Cmm)陽性。トマトかいよう病と診断。
5月2日	梨(幸水)	栃木市岩舟町	幸水・豊水・あきづき混植園内で、苗木育成中に枯死	外観症状及び検鏡の結果から白紋羽病と診断。
5月8日	なす (穂木:千両2号 台木:緋脚)	栃木市	新葉の縮れ。アブラムシ類の発生が見られる。	イムノストリップ(CMV、TSWV、TMV)陰性。RT-PCRの結果、BBWVは検出されなかった。生理障害と判断。
5月9日	リンドウ (るりおとめ)	宇都宮市	株の萎縮、葉の奇形・縮れ、黄化	イムノストリップ(CMV)陰性。RT-PCRの結果、 <i>Potyvirus</i> 、 <i>Fabavirus</i> 、 <i>Tombusvirus</i> 、 <i>Tobamovirus</i> 、 <i>Tospovirus</i> 、 <i>Carlavirus</i> は検出されなかった。
5月9日	なす	大田原市	育苗苗の中に散見(10本くらい発生)。	くびれた部分の前後に若干の褐変が見られるが、病原菌等は、検出されない。本症状は、風等によって地際部がねじれたことが原因であり、病害虫によるものではないと診断。
5月9日	にら	さくら市	ほ場全体で、黄化とろけが見られる。	地際部に黒色の小菌核が見られる。また、鱗片基部(根のつけね)に褐変が見られ、定法による組織分離を行った結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離される。以上から本症状は、にら黒腐菌核病とにら乾腐病であると診断。

5月12日	トマト(RW)	真岡市西田井	果実の障害(白すじ、アミ果)、特定のベツで発生し、畝づたいに作業方向への伝染が疑われる。日数が経過すると枯死。地際の随部が褐変した株も見られた。	維管束及び根に褐変等は見られない(上位のわき芽部分に軽微な褐変が見られる)。イムノストリップ(CMV)陽性。RT-PCR( <i>cucumovirus</i> )でも特異的な増幅が認められる。褐変部分からは、 <i>Erwinia</i> 属菌が分離される。以上から本症状は、CMV及び <i>Erwinia</i> 属菌によると診断。
5月12日	ブドウ(巨峰)	宇都宮市	蔓に白色の斑点、そうか症状が見られる。ハウス栽培で発生が見られる。	検鏡の結果、糸状菌、細菌は確認されなかった。組織分離の結果、特定の病原菌は分離されず、病害ではないと診断。
5月12日	トマト(麗容)	壬生町	果実に褐色のえそが見られる。毎年、春先以降に目立ってくる。	イムノストリップ(CMV)陽性。トマトモザイク病(CMV)と診断。
5月13日	トマト(穂木:アニモTY-12、桃太郎ヨーク/台木:台本命)	日光市	葉のえそ斑点、褐変、萎縮症状が見られる。	イムノストリップ(TSWV)で陽性。トマト黄化えそ病と診断。
5月14日	ハイブリッドスターチス	さくら市喜連川	葉が黄化し除々に萎れる。株の中の一部だけ萎れ症状が見られる株もある。	定法による組織分離を行った結果、 <i>Sclerotinia</i> 属菌及び <i>Fusarium oxysporum</i> が分離される。
5月15日	水稻	那須烏山市	・ほ場全体で発生。植えた全てのほ場で発生。 ・葉が黄化し、褐色斑点や褐変が発生。 ・葉先～葉鞘がよれて白化・枯死。 ・葉鞘の地際部が黒変し腐っている。	<i>Bacillus</i> 菌のみ分離されたため病害ではないと診断。その後障害株を栽培していたところ正常に生育した。
5月16日	スプレーマム	塩谷町	ハウスの東端のベツで、株の中央部の葉が枯れている。ベツを外側から見るとわからないが、ベツ中央部に散見されている。株の生育は悪くなく、枯葉さえとれば出荷可能。前作で同じハウス内の西端のベツで、同じ品種(セイサイラス)に同じような症状が出た	維管束、根に障害等は見られない。中段(葉枯部分)に不定根の発生が見られるが、維管束に障害等は見られない。蒸れ等による生理障害の可能性が高いと診断。
5月16日	梨	鹿沼市	芽の周辺部分だけが黒変している。今年の3月に植付け(その時点では、病斑等は見られなかった)が、5月上旬から黒変が目立つようになった(20~30本発生)。芽は、枯れないが、黒変していないものに比べ、生育が遅れる。5/21主幹部に穴が開いているのを確認。再持ち込み	枝からは病原菌が確認できず。主幹部の穴周辺が黒変しており、ハンノキキクイムシの成虫を確認。キクイムシの食害によって、樹が衰弱し、黒変症状が現れたと診断。
5月16日	きゅうり	上三川	葉にモザイク症状が出ている。	イムノストリップ(CMV)陽性。RT-PCR( <i>cucumovirus</i> )でも特異的な増幅が認められる。
5月16日	梨	西川田	葉に斑点の変色のみられる。サビダニでよいか?	ニセナシサビダニの寄生を確認
5月19日	シャクヤク		葉の萎縮のみられている。類似症状はイチゴメセンチュウのようだが確認してほしい。除草剤のバスタの散布暦あり。	被害葉・芽からはセンチュウ類は検出されず。被害状況からセンチュウの可能性は低いが、時期的にセンチュウ個体数が減るため、非検出であってもセンチュウでないとの断定は困難。CMV反応は「-」。
5月19日	ダイコン(晩々G、貴宮)	小山市	新葉の縮れ、癒着、モザイク症状。発生は本葉5枚展開頃から見られる。4月8日は種の晩々Gで多い傾向。	イムノストリップ(CMV)陰性。RT-PCRの結果、TuMVも未検出であった。は種後に除草剤の散布履歴があることから、葉害の可能性が高いと判断。
5月20日	梨		テープでナシマルカイガラムシのモニターリングをしており、細粒状のものが得られたが確認したい。	ナシマルカイガラムシのスケール(甲羅)部分と確認。昨年の成虫由来のものであった。ふ化幼虫は確認できず。

5月20日	いちご	宇都宮市	親株床で株が萎れる。プランター+やしがら培地(プランター内 EC2.0) クラウン部を切断し経過観察すると <i>Fusarium</i> が見られる。	クラウン部に褐変やシミ症状が見られる。定法による組織分離を行った結果、 <i>Phytophthora</i> が高率に分離される。イムノストリップ (Phyt) でも陽性であった。以上から本症状は、イチゴ疫病と診断
5月20日	いちご (なつおとめ)	高根沢町	高温障害に似た葉枯れ症状が新葉より2~3枚目に散見される。根の中心に変色は見られず、クラウンの導管部に不鮮明な褐変見られる。発生は5株程度。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。
5月22日	メロン(クインシー、タカミ)	真岡	タカミは、4月7日頃から、4月17日頃から萎れが見られる。	組織分離およびPCRの結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が検出。メロンつる割れ病と診断。
5月23日	いちご(親株) (とちおとめ)	鹿沼市	株の萎凋、枯死。クラウン部は不整形に褐変(炭疽病の症状)。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
5月23日	いちご(親株) (とちおとめ)	鹿沼市	株の萎凋、枯死。クラウン部は不整形に褐変(炭疽病の症状)。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
5月26日	ショウガ		根茎内部が水浸状に腐敗、部分的な褐変。	組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。 <i>Pythium</i> 属菌によるショウガ根茎腐敗病と診断。
5月28日	いちご(親株) とちおとめ ナイアガラ育苗	栃木市	ハウス内で点在的に葉が萎れている。葉柄部で曲がって萎れている。	クラウン部の切断面、炭疽病の症状に類似。検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。イムノストリップ (Phyt) 陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。イチゴ炭疽病と診断。
5月29日	スプレーキク(セヒラー、セイガラフ)	塩谷町	葉の変色、枯れが圃場全体に散見される。一部では花首の曲りもみられる。葉の変色は消灯後あたりから見られる。	葉の変色、枯れ部分のRT-PCRの結果、CSNVが検出された。花首のくびれや茎のねじれ部分に随部褐変が見られたが、病原菌等は、検出されなかった。
5月30日	トマト	上三川	萎れ。巻葉。	イムノストリップ (CMV) 陽性。モザイク病と診断。
6月2日	アスパラガス		春芽が出てこない。地下部にヨトウの食害のような症状。ほ場全面にみられる。小さな虫が見えるがナダニか?今年からカニ殻を入れた。屋根は張り替えのため今は無い。	ササラダニ、ハネカクシ類、シロトビムシ類の寄生を確認。今年からカニ殻等の有機質を入れたとのことで、有機質を餌とするトビムシ類の増加による被害の可能性が考えられる。この場合、地中で加害するため、ランネットの灌注なら対応可能であろうと答えた。
6月2日	なす(千両2号+カレヘン)	市貝町	定植1週間後頃から萎れが見られ、地際部、根の芯に褐変が見られる。	組織分離の結果、卵菌類(卵孢子)が高率に分離された。 <i>Pythium helicoides</i> 、 <i>P.aphanidermatum</i> 、 <i>P.myriotylum</i> についてPCRを行ったが特異的な増幅は認められなかった。
6月3日	いちご	下野市	いちご株の生育不良。3月以降も伸びてこない。センチュウではないか?	根と土壌をベルマン抽出したが、センチュウ類は検出されず。サンプルは蒸し込み後の枯れた状態であったため、検出できなかった可能性がある。センチュウ対策を取ったうえで、翌年の経過を見る必要がある。
6月3日	ジャガイモ (加工用品種:トヨシロ)	宇都宮市	地上部の萎れ、下葉の黄化。発生はほ場入口部分に1株のみ。排水条件は悪い。	中耕培土直後の発生、ほ場の排水条件から病害の可能性は低いと判断。
6月3日	いちご(親株) (とちおとめ)		株の萎れ。クラウン部は不整形に褐変。	検鏡の結果、卵菌類(卵孢子)が観察された。イムノストリップ (Phyt) も陽性。イチゴ疫病と診断。

6月3日	すもも	小山市	最近5年ほど、植えつけた苗木が8割枯死。 主枝の片方から枯れ始め、全体に及ぶ、害虫は未確認。	枝枯れした部分に病徴等は見られない。 主枝の片側から枯れ始め、全体に及ぶとのことなので、枝枯れ部分よりも下の部分について調べる必要がある。
6月3日	小麦	宇都宮市	5月中旬からほ場の周囲で発生し、ほ場内で坪常、帯状に発生 早期に枯れ上がってしまった	<i>Trichoderma</i> や <i>Fusarium</i> のようなものが雑多にとれるが麦の病原になるものではないため2次的なものと推察される。症状は立枯病に類似しているが、はっきりとした病原が採取できなかった。
6月4日	トルコギキョウ	小山市	定植直後から株の枯れが見え始めたが、一番花は8割程度の収穫があった。 春、二番花が生育し始めると、多くの株が枯れ始めた。 株の枯れには品種間差がある。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離される。 分離菌及び病徴等からトルコギキョウ茎腐病と診断。
6月4日	トマト(桃太郎はるか+ブロック)	宇都宮市	7段あたりの果実でまだら果が多発生。 昨年発生したところと同じ場所で今年も発生した。 発生は周辺に拡大している。根はさきいだが、接ぎ木上部からは維管束が褐変している。根の中心にも褐変が見られる。	イムノストリップ(CMV)陽性。地際部の維管束、根部から組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。果実についてはCMVによるトマトモザイク病と診断。根部の原因は不明。
6月5日	輪キク(精菱)	下野市	頂芽がしおれる症状が見られる。赤っぽい幼虫が見られる。	チョウ目幼虫の食入を確認。ノメイガ類と思われる。茎内部に食入しているため、浸透移行性のある薬剤での防除が必要。
6月5日	小キク(精はぎの)	下野市	株の立ち枯れ症状。特定の品種に特異的に発生。畝ごとに散見される。 根に褐変、脱落が見られる。地上部にも糸状菌が認められる。	組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。キクピシウム立枯病と診断。
6月5日	ミニトマト	那須塩原市	葉に黒点えそ症状が見られる。 ハウス内で飛び飛びで発生し、その後拡大した(坪状に発生)。 前年も多少の発生があった。	イムノストリップ(CMV)陽性。(TSWV、TMV)は陰性。 その他のウイルス感染については、不明
6月5日	トマト(りんか409+ボランチ)	鹿沼市	茎、葉の黒変し、髓部にも黒変が見られる。発生は10日くらい前から見られるようになった。前年も一部見られた。	イムノストリップ(Cmm)陽性。トマトかいよう病と診断。
6月5日	水稻		新葉などが白化している。発生株率は0.1~0.2%	テフリトリオンの白化作用による薬害と診断。エライザによる縞葉枯病検定でも反応なし。
6月6日	バラ(ブラックベリー)	佐野市	5月下旬ころから道路側に出ている葉が枯れてきた。内側には症状が見られていない(特にブラックベリー)。	組織分離の結果、何も分離されなかった。 症状の発生状況から病害虫によるものではないと診断。
6月10日	いちご	栃木市	萎れている株がある(曇雨天時も萎れる)。 萎れの発生は、単棟ハウス内で、多少のムラはあるものの全面で見られる。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
6月10日	たまねぎ(ターボ)	宇都宮市	ほ場全体で根がピンク色になる症状が見られる。	タマネギ紅色根腐病と診断。
6月10日	いちご(スカイベリー)	宇都宮市	株の萎凋、枯死。クラウン部は不整形に褐変(炭疽病の症状)。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
6月10日	なす(千両2号+赤なす)	市貝町	定植10日後頃から萎れが見られ、地際部、根の芯に褐変が見られる。	イムノストリップ(Rs)陽性。 組織分離の結果、卵菌類(卵胞子)が高率に分離された。 <i>Pythium helicoides</i> 、 <i>P.aphanidermatum</i> 、 <i>P.myriotyium</i> についてPCRを行ったが特異的な増幅は認められなかった。

6月11日	ねぎ		萎縮症状	RT-PCRの結果、6種 ( <i>Garic novel-type virus</i> , <i>Leek yellow stripe virus</i> , <i>Onion yellow dwarf virus</i> , <i>Wakegi yellow dwarf virus</i> , <i>Garic latent virus</i> , <i>Garic common latent virus</i> ) のウイルス検出されず。
6月12日	リンゴ(ジョナゴールド)	宇都宮市	主幹の樹皮に赤褐色の染みが見られる。複数の品種で発生が見られ、降雨後に目立つ。好天時には症状は見えにくくなる。	組織分離の結果、 <i>Botryosphaeria</i> 属菌、 <i>Diaporthe</i> 属菌が分離された。発生経過や病徴からリンゴ胴腐病の可能性が高いと判断。
6月13日	いちご(とちおとめ)	下野市	親株床で株が萎れる。クラウン部には、若干の褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。以上からイチゴ萎黄病と診断。
6月13日	いちご(とちおとめ)	下野市	株の一部に葉枯れ症状が見られる。また、ランナーの一部には、萎れが見られているものがある。	組織分離の結果、葉枯れ、クラウン部分ともに病原菌等は、検出されなかった。葉枯れ症状については、チップバーン。ランナーの萎れについては、誘引時に無理な方向へ引っ張ったことが原因と考えられる。
6月16日	いちご	鹿沼市粟野	炭疽病罹病株を検鏡中に多数のセンチウが認められた。	検鏡の結果、口針は認められず、植物寄生性センチウと比べ体も短く太いため、自活性センチウと考えられた
6月16日	いちご	栃木市西方	株の萎凋、枯死。クラウン部は不整形に褐変。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
6月17日	らっきょう	壬生町	葉が枯れ上がり、葉鞘の一部が赤く変色している。	鱗片基部から組織分離を行ったが、病原菌等は検出されなかった。本症状は、病害虫によるものではないと診断。
6月17日	トマト	小山市	地際部に褐変が見られる。果実の着色まだら、柳葉症状、斑入りの一部が見られる。	イムノストリップ(CMV)陰性。組織分離を行った結果、 <i>Fusarium solani</i> が分離された。トマトフザリウム株腐病と診断。
6月17日	なし(おりひめ)	芳賀町	昨年の3月に移植したが、今年の春頃から枯死株(2株)が見られる、	根の表面には、白色の菌糸が観察される。検鏡の結果、ナン白紋羽病と診断。
6月17日	ニラ	河内町	葉にまだら症状が見られる。えそ条斑病でないかと思うが確認してほしい。	イムノストリップ(IYSV)陰性。RT-PCRの結果、SLVが検出された。ニラウイルス病と診断。
6月18日	いちご(とちおとめ)	下野市	ランナーに陥没病斑が見られる。イチゴ炭疽病であるかどうか確認したい。	検鏡及びPCRの結果からイチゴ炭疽病ではないと診断。先枯れ等が原因でないかと考えられる。
6月19日	ずもも	小山市	5年ほど前から、植えつけた苗木の8割が枯死(主枝の片方から枯れ始め、全体に及ぶ)。害虫の発生は未確認。	導管変色部周辺を観察したところ多数の穴が見られ、キクイムシによるものと考えられる食入痕が見られた。本症状は、キクイムシの寄生が原因であると診断。
6月19日	クリ	小山市	植えつけた苗木(5年樹)が落葉・枯死。地際部周辺(剪定部位)の樹皮が赤褐色、橙黄色の巻きひげ状のものが観察される。表皮が容易に剥離され、木質部に不鮮明かつ不整形の染みが見られる。根元は健全。	組織分離の結果、2種の糸状菌( <i>Cryphonectria</i> 属菌、不明菌)が高率に分離され、外観症状から( <i>Cryphonectria</i> 属菌によるクリ胴枯病)と診断。



6月23日	いちご (スカイベリー)	上河内	萎れる株が見られる。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
6月24日	小麦	佐野市	圃場 70a 9枚(すべての圃場)に発生 発病程度 5~1% 程度と思われる。 黒色の粒が確認できる	検鏡による厚壁胞子の大きさと病徴により小麦なまぐさ黒穂病と診断。
6月25日	トマミニト(サンチェリー250、自根)	宇都宮市	地上部の黄化、枯れ上がり症状。主根の表面、維管束が褐変。細根の離脱が著しい。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。PCRの結果でも <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められた。ミニトマト萎凋病と診断。
6月25日	鉢植えピーマン	下野市	葉・果実にえそ輪点、茎にえそ条斑が見られる。	イムノストリップ(TSWV)陰性。 RT-PCRの結果、CSNVの特異的な増幅が認められた。 以上からピーマンえそ輪点病と診断。
6月26日	モロヘイヤ	上三川	上位葉が縮葉となってしまう。	経過観察した結果、症状が改善された。 外観傷病等から何らかの生理障害であると診断。
6月26日	トマト	宇都宮市	トマトのへた部分に黒色のカビが観察される。	本症状は、表面のみに見られ、組織内への侵入等は見られない(拭き取るとおちる)。病原菌によるものではないと診断。
6月30日	スプレーキク(アルツ)	塩谷町	株元から枯上がり、生長点が萎れる。生育初期からわずかに立ち枯れ症状がみられた。ベツ全体に散見されるが、広がりは見られない。	根部組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。キクピシウム立枯病と診断。
7月1日	鉢植えトマト	下野市	葉にえそ斑点、茎にえそ条斑が見られる。	イムノストリップ(TSWV)陰性。 RT-PCRの結果、CSNVの特異的な増幅が認められた。 以上からトマト茎えそ病(仮称)と診断。
7月2日	クレマチス	大田原市	地上部が部分的に枯れ上がる。根部に傷みは見られない。6月上旬に鉢上げし、中旬以降に症状が見られるようになった。発生は特定の品種で目立つ。	組織分離の結果、2種の糸状菌が高率に分離された。糸状菌の同定はできなかった。
7月3日	水稻	鹿沼市久我	葉のううれい症状、黄化	病徴、エライザによる検定により縞葉枯病と診断
7月4日	キク		中断の葉が枯れる(葉先や斑点)。	RT-PCRの結果、 <i>Tospovirus</i> 属、CSNVの特異的な増幅は認められなかった。 その後、中断の葉先枯れ症状の上位進展は見られず、株の経過観察でも症状は改善した。 以上から病害虫によるものではないと診断。
7月7日	夏秋トマト	宇都宮市	特に低位の果実で萼が極端に小さくなり、萼周辺の果頂部がくぼみ、かさぶたのような跡がある。 一部の萼にはかすり状の傷がある。	本症状は、病害虫によるものではない。 特に低位の果実に発生していること等から生育初期の低温等が原因の生理障害であると考えられる。
7月7日	イチゴ (スカイベリー)	佐野市	親株100株のうち1株が萎れた。切断から微量の菌泥を確認。近隣の1株が5月に萎れたが菌泥は確認されていない。現在拡大は確認されていない。	イムノストリップ(Rs)で陽性。 イチゴ青枯病と診断。
7月7日	イチゴ (スカイベリー)	足利市	70株定植して現在3株が青枯症状。ク라운から菌泥を確認。3株とも1プランタ内で広がっている様子で、発症時期は6月中旬が始め。他のプランタでは、今のところ発生見られていない。	イムノストリップ(Rs)で陽性。 イチゴ青枯病と診断。

7月7日	ブドウ(巨峰)	栃木市	ブドウの果実表面に褐色の小斑点。ほ場内では黒とう病の発生も見られる。	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。ブドウ晩腐病と診断。
7月8日	ショウガ	塩谷町	葉先の黄化	検鏡の結果、細菌や糸状菌は見られなかった。地下部のサンプルが無いため特定はできなかった。
7月9日	メロン	矢板市	葉に退緑黄化症状が見られる。定植後初期にコナジラミ類の発生が見られたがその他の病害虫の発生は確認していない。	RT-PCRの結果、メロン退緑黄化病(CCYV)は陰性。メロン黄化病(BPYV)は、特異的な増幅が認められた。以上からメロン黄化病と診断。
7月9日	なす(式部+トナシム)	さくら市	1棟200株中7株程度発生中。徐々に増えてきている。青枯れ症状的に萎れて枯れている。	イムノストリップ(Phyt、Rs)は、陰性。
7月9日	水稻	上三川町	葉のううれい症状、黄化	病徴、エライザによる検定によりイネ縞葉枯病と診断
7月10日	ねぎ	大田原市	葉身に黄斑や黒斑症状が見られる。	検鏡の結果ネギ葉枯病と診断。
7月10日	アオダモ		枝の肥大、がんしゅ症状。	組織分離の結果、 <i>Diaporthe</i> 属菌が分離された。 <i>Diaporthe</i> 属菌による枝膨れと判断。
7月15日	なす(自根)	さくら市	1棟200株中7株程度発生中。徐々に増えてきている。黄化後、青枯れ症状的に萎れて枯れている。根の中心が褐変している。	イムノストリップ(Phyt、Rs)は、陰性。組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が分離された。以上からナス半枯病と診断。
7月16日	スプレーキク(オリブ)	塩谷町	下葉から枯れ上がり、ひどくなると株全体が枯死。根はしっかり張っていた。特定の品種でのみ発生が見られ、ほ場の中で発生が散見。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離され、キク萎凋病と診断。
7月16日	ショウガ(三州)	大田原市	収穫時に塊茎部及び茎基部に変色が発生し、症状が進むと葉鞘の枯れが発生する。塊茎部への菌糸は特に見られていない。数年前より一部で発生見られたが、今年は特に発生が多い。	組織分離の結果、 <i>Rhizoctonia</i> 属菌が高率に分離された。以上からショウガ紋枯病と診断。
7月17日	ミニトマト(アンジェレ)自根	宇都宮市	株の萎れが見られる。	イムノストリップ(Rs)陽性。ミニトマト青枯病と診断。
7月18日	水稻 コシヒカリ	那須烏山市	ほ場の畦畔から散見される(30aほ場外周して20株程度)。芯葉が黄化してううれい症状を呈している。	症状からイネ縞葉枯病と診断したが、後日エライザ検定を行ったところ陰性。生理障害であると診断。
7月23日	にら(ワンダーグリーンベルト)	宇都宮市	ほ場の一角、1/10の株に葉枯症状が見られる(葉の先端部から枯れている)。	バルブや根に病徴は見られない。組織分離した結果、病原菌等は検出されなかった。直近にロックスを散布しており、発生時期とも含め被害の可能性が高いと診断。
7月24日	イチゴ(スカイベリー)	佐野市	親株に萎れが見られた。親株床(プランター)の一部で青枯病の発生が見られる。	イムノストリップ(Phyt、Rs)は、陰性。 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。以上からイチゴ炭疽病と診断。
7月24日	スプレーキク(オリブ)	塩谷町	花首のしおれと花卉の褐変がみられる。セリムに特に発生が多く、昨年も発生した。今回の発生はベッドの通路側のみに発生している。花腐細菌病が疑われる。	組織分離の結果、数種の細菌が分離された。細菌の性状検定(API2ONE)の結果、 <i>Erwinia</i> 属菌が確認された。発生状況から二次的に細菌が侵入したと考えられた。

7月25日	ナス(千両2号+トルバム)	上三川町	一部の葉の色がやや黄色く抜けたようになった後、株全体が青いましおれ、段々回復しなくなる。同じような症状ですでに70本くらい抜いた。地際部(台木)の表面が腐敗、表皮の離脱が見られる。根部の中心も褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌( <i>F.solani</i> )が高率に分離された。ナス立枯病の可能性が考えられた。
7月25日	カーネーション		地上部の萎凋、枯れ上がり。萎凋病または萎凋細菌病の疑い。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。また、細菌(2種)も分離されたため、細菌の性状検定(APIZONE)を実施した。その結果、 <i>Burkholderia</i> 属は確認できなかった。カーネーション萎凋病と診断。
7月28日	なし	小山市乙女	主幹部および主枝上に孔、周辺に木屑虫、虫糞や異臭などは無し表皮がもろくなっている。	木くずが荒く乾いていることなどから、ヒメボクトウの可能性は低いと考えられる。カミキリムシ等のコウチュウ類が考えられるが、断定には幼虫の確認が必要。
7月28日	イチゴ(とちおとめ、スカイベリー)	佐野市	親株の一部のランナーに萎れが見られる。親株の維管束に褐変のような症状が見られる。	親株の維管束に軽微な褐変症状が見られる。組織分離を行ったが病原菌等は、検出されなかった。親株の萎れ等は、なくランナーの一部に限定された症状であることから外的要因(風等によるランナーのねじれ等)が原因であると診断。
7月29日	イチゴ(スカイベリー)	宇都宮市上河内	親株及び発生した苗が黄化・萎縮する。7月後半から症状が見え始め、全てのランナーに同じ症状が見られる。	RT-PCR(SMYEV、SMoV、SCR、SVBV)した結果、特異的な増幅断片は認められなかった。維管束や根にも病徴は見られないことから何らかの生理障害の可能性が高いと診断。
8月1日	なし(にっこり)	小山市荒井	主幹部に孔、周辺に木屑虫、虫糞や異臭などは無し	幹内部にカミキリムシ類の幼虫が認められた。食入してしまった幼虫には防除薬剤は無い。トラサイドA乳剤やバイオリサ・カミキリでの予防が主体となるが、防災網が展開されているため、園内の被害樹を探し、針金などを用いて直接殺すことで、次世代を出さない対策が有効と考えられる。
8月1日	イチゴ(とちおとめ)	佐野市	親株の一部のランナーに萎れが見られる。	組織分離を行ったが病原菌等は、検出されなかった。親株の萎れ等は、なくランナーの一部に限定された症状であることから外的要因(風等によるランナーのねじれ等)が原因であると診断。
8月4日	イチゴ(とちおとめ)	高根沢町	新葉の黄化、萎縮、奇形。発生は全体で数株程度。萎黄病の疑い。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。病害の可能性は低いと判断。
8月4日	ナス	大田原市	地上部の黄化、萎凋。根部の中心に褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。
8月5日	イチゴ(とちおとめ)	宇都宮市上河内	親株及び発生した苗が黄化・萎縮する。7月後半から症状が見え始め、全てのランナーに同じ症状が見られる。	症状の激しい株は、そうでない株に比べて根の褐変が激しい。組織分離したが病原菌等は検出されない。
8月5日	リンゴ	矢板市	葉に褐色小斑点が複数見られる。斑点落葉病、褐斑病の疑い。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。病害の可能性は低いと判断。
8月6日	イチゴ(とちおとめ)	小山市	新葉の奇形。一部の株ではクラウンの導管部に褐変が見られる。根部は健全。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。病害の可能性は低いと判断。
8月7日	満願寺とうがらし	宇都宮市小池	実が黒色に変色してしまう。	地上部の生育に対して根量が少なく、根及び維管束に軽微な褐変が見られる。組織分離したが病原菌等は認められなかった。

8月7日	トマト(麗容)	宇都宮市	成長点付近を中心に退色、萎凋がみられる。 ハウス内の一部で、うね伝いに連続的に発生している。	イムノストリップ(CMV、TMV)陰性。 外観症状等から生理障害であると診断。
8月7日	イチゴ (とちおとめ)	鹿沼市	苗の新葉の奇形および葉柄の変色が見られる	虫体は確認できなかったが、被害状況からチャノキイロアザミウマの可能性が高いと診断
8月7日	イチゴ (スカイベリー)	宇都宮市	葉上に黒色の小斑点。葉柄に黒色の陥没斑点。	検鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
8月14日	イチゴ (とちおとめ)		採苗後の親株が萎凋枯死。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が2種分離された。PCRの結果、 <i>F.oxysporum</i> に特異的な増幅が認められたが、萎黄病菌に特異的な増幅は認められなかった。 採苗後に二次的に侵入したと考えられた。病害の可能性は低いと判断。
8月18日	イチゴ (スカイベリー)		地上部の萎凋。地際部に肌色の菌核が見られる。	外観症状からイチゴ白絹病と診断。
8月18日	ファレノプシス	宇都宮市	葉の不明瞭な黄化	組織分離の結果、 <i>Fusarium solani</i> が高率に分離された。ファレノプシス株枯病と診断。
8月18日	水稻	宇都宮市	穂がすすくみし、枯れた部分に黒色の菌が見られる。	エライザ検定で陽性。 縮葉枯病と診断。穂についてたのは枯れた部分に二次的に雑菌がついたものと考えられた。
8月21日	イチゴ (とちおとめ)	栃木市	根の褐変と葉色の黄化。クラウン部に褐変は見られない。	組織分離の結果、 <i>Penicillium</i> 属菌が高率に分離されたが、根部の水分量が多く多湿気味であることから、根の生育不良によるものと判断( <i>Penicillium</i> 属菌は二次的に寄生)。
8月22日	イチゴ (とちおとめ)	鹿沼市	葉上に褐色小斑点。じゃのめ病、輪斑病の疑い。	組織分離した結果、特定の糸状菌が高率に分離されたが、未同定。じゃのめ病、葉枯病、輪斑病の病原菌は見られないことから、病害の可能性は低いと判断。
8月22日	キク	下野市	わい化、下葉のしおれ(黄化)。 特定の場所(ほ場)で発生。	矮化ウイルスは検出されなかった。根部から組織分離した結果、特定の病原菌は分離されなかった。病害以外の原因と判断。
8月25日	シクラメン	栃木市	8月上旬から葉の黄化から株の萎れ。ほ場の一部であるが、徐々に広がっている。根部に明瞭な褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。シクラメン萎凋病と診断。
8月25日	トマト	宇都宮市	葉が糸葉症状となっている。	イムノストリップ(CMV)陰性。 ホルモン剤がかかったことによる障害と診断。
8月25日	トマト	宇都宮市	株の一部に枯れが見られる。 枯れの見られる部分には、不定根が発生。	イムノストリップ(Rs)陽性。 青枯病と診断(管理作業等による株の中断からの感染)。
8月26日	バラ(サムライ)	上三川町	下葉からの黄化と枯れ上がり。地際部は水浸状に黒変し、根部に著しい褐変と離脱が見られる。	イムノストリップ(Phyt)陽性。バラ疫病と診断。
8月26日	トマト(ハウス桃太郎+がんばる根ベクト)	宇都宮市	株の一部に枯れが見られる。 枯れの見られる部分には、不定根が発生。	イムノストリップ(Rs)陽性。トマト青枯病と診断。
8月27日	イチゴ (スカイベリー)	佐野市	8月くらいから、育苗ハウスの一部で萎れ症状が見え始め、萎れが拡大している。	<i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、PCRでも特異的な増幅断片が認められた。 以上からイチゴ炭疽病と診断。

8月28日	水稲	宇都宮市	葉の縁が黄色に退色している。	葉の切片を顕鏡したところ菌泥の噴出を確認。病徴からもイネ白葉枯病と診断。
9月1日	キク	大田原市	下葉の黄化、矮化。	組織分離の結果、 <i>Plectosporium</i> 属菌が高率に分離されたが、病原の特定はできなかった。
9月2日	ねぎ	宇都宮市	葉身基部が腐敗して簡単に抜けてしまう。	基部に菌核が認められ、外観症状等からネギ白絹病と診断。
9月3日	トマト	鹿沼市	TYLCVに感染している可能性あり。	PCRによりTYLCVの感染を確認した。トマト黄化葉巻病と診断。
9月3日	トルコギキョウ (セレブグリーン)	小山市	地上部の萎凋症状、主根に褐変が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。トルコギキョウ立枯病と診断。
9月3日	トルコギキョウ (コラゾライトピンク)	小山市	地上部の萎凋症状、地際部の腐敗、主根に褐変が見られる。	イムノストリップ(Rs)陰性。組織分離の結果、 <i>Rhizoctonia</i> 属菌が高率に分離された。トルコギキョウ株腐病と診断。
9月3日	イチゴ (とちおとめ)	栃木市(西方)	株の萎れと葉上に黒色の小斑点が見られる。	顕鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、イチゴ炭疽病と診断。
9月3日	にら (グリーンロード)	鹿沼市	葉にすじ状の腐敗が見られ、中心部の葉身に軽微なねじれ症状が見られる。	バルブ等に褐変等は認められない。ニラに感染するウイルス病についてもRT-PCRの結果、特異的な増幅断片は認められない。葉のすじ状腐敗部分を顕鏡すると細菌の噴出が確認できる。本症状については、細菌類による腐敗と診断。
9月3日	リンゴ	矢板市	葉上に褐色の小円形の斑点が見られる。	顕鏡の結果、 <i>Alternaria</i> 属菌の分生子が確認された。リンゴ斑点落葉病と診断。
9月3日	リンゴ	矢板市	葉葉上に不整形な褐変が多数見られる。発生は一部の樹に限定。	顕鏡の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌の分生子が観察された。また、組織分離の結果、同属菌が高率に分離され、リンゴ炭疽病と診断
9月4日	キク	大田原市	わい化、下葉の黄化症状。矮化ウイロイドが疑われる。	簡易キットによる診断ではキク矮化ウイロイドは検出されなかった。組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。症状と併せてキク萎凋病と診断。
9月4日	ポケ	さくら市	株元が枯死。根部には白色の菌寄生が見られる。	外観症状、発生状況からサクラ類で報告があるべっこうたけ病の可能性が高いと判断。
9月4日	トマト	上三川町	鉢上げ直後に苗が萎凋・枯死。地際部は水浸状に腐敗。	組織分離の結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。トマト苗立枯病と診断。
9月8日	なす(自根)	大田原市	露地ナスで萎れや枯死株が見られる。発生している部分は、連続して症状が見られる。	維管束、根の中心に褐変が見られ、菌泥の噴出も観察される。イムノストリップ(Rs)で陽性。以上からナス青枯病と診断。
9月9日	イチゴ(スカイベリー)	小山市 (山上げ: 戦場ヶ原)	山上げイチゴで展開葉3枚目の変色し萎縮している。その後、展開してくる葉に症状は見られない。また、隣接するとちおとめには、同様の症状は見られない。	クラウン部に褐変等は、見られない。根の一部に若干の褐変が見られことから組織分離を行ったが病原菌等は検出されない。発生部位が同一葉であることと等から葉害や生理障害の可能性が高いと診断。
9月9日	ケイトウ		葉、茎に黒色の小斑点、大型の斑点	顕鏡の結果、組織分離の結果、 <i>Ascochyta</i> 属菌(似た?)が高率に分離された。

9月9日	ヒマワリ		葉、莖に黒色の小斑点、大型の斑点	検鏡の結果、組織分離の結果、 <i>Ascochyta</i> 属菌(似た?)が高率に分離された。
9月10日	飼料イネ (クサホナミ)	小山市石の上	飼料イネ(抵抗性品種:クサホナミ)で、縞葉枯病と思われる症状が発生している。 現地の確認と診断をお願いしたい。	外観症状は、縞葉枯病の出すくみ症状であり、サンプルをELISA検定したところ縞葉枯病に対し陽性反応であった。 以上から本症状は、イネ縞葉枯病と診断。
9月11日	イチゴ(とちおとめ、スカイベリー)	上河内 フリー基地	7月くらいから萎れが見られ、晴天日に萎れが激しく、曇天日には回復する。ランナー発生が周囲より劣る。ベンチの所々に発生があり、連続していない。	とちおとめ1株はイムノストリップ(Rs)で陽性のため、イチゴ青枯病と診断。残りのとちおとめ2株とスカイベリー1株は、陰性。クラウン部を切断するとしみ症が見られた。また、すべての株でイムノストリップ(Phy)で陰性であった。
9月11日	ほうれんそう	上三川多功	本葉が出た頃に外葉が萎れる。黄化は見られない。ほ場の外周の一部に発生。	組織分離の結果、ピシウム菌が分離された。ピシウム菌によるホウレンソウ苗立枯病と診断。
9月17日	イチゴ(スカイベリー)	山上げ:戦場ヶ原	山上げイチゴで葉に枯れが見られる。	組織分離の結果、病原菌等は、検出されなかった。 何らかの障害により葉枯れ症状が発生したものと考えられる。
9月17日	なし(幸水、豊水)	佐野市高橋町	春から初夏にかけて、主枝部分から虫糞を確認。全面積のうち3、4樹で発生を確認。害虫は、赤色のイモムシでカミキリムシ類の幼虫に類似。一カ所の虫糞から7、8匹を採取。	幼虫の形態および集団で加害する特徴からヒメボクトウと同定。
9月17日	輪キク(精の一世)	栃木市大平町	8月中旬以降下、葉から枯れ上がる。根部に褐変が見られる。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。植物寄生性のセンチュウが確認されたが、密度が低く、今回の症状との関係は不明。 原因の特定はできなかった。
9月18日	大豆 (里のほほえみ)	宇都宮市平出	べと病にアミスター20フロアブルを散布したが効果が認められない。 耐性菌ではないか	病斑を確認したが病徴は停滞しているように観察される。
9月24日	ニラ (ミラクルグリーンベルト)	栃木市西方町	葉の部分的な壊死。その結果、壊死した上部が萎れる症状を呈する。萎れが進むと葉の上部が完全に枯れこむ状態。1株に複数の葉で同じ症状が確認できる。新しい葉に異常は見られない。発生はつぼ状。9月上旬頃から症状が目立ち始めた。	イムノストリップ(Phyt)は、陽性。外観症状を含めニラ白色疫病と診断
9月26日	バラ(カタリナ)	下野市国分寺	8月上~中旬から下葉の黄化、落葉が始まり、9月に入り急激に病徴が進展した。	イムノストリップ(Phyt)は、陽性。外観症状を含めバラ疫病と診断
9月26日	トルコギキョウ (サルサマリ)	館林市	株の上段を中心に葉脈間の黄化症状が見られ、一部葉脈間に枯れも見られる。	イムノストリップ(CMV、IYSV)は陰性。BBWV、 <i>Tombus Virus</i> は、RT-PCRによる診断では陰性。要素欠乏または過剰の影響ではないかと推測される。
10月2日	麗容+グリーンセーブ	鹿沼市	接ぎ木部分、葉の付け根部分、2本仕立ての部分等が黒く変色。	組織分離の結果、病原菌等は、検出されなかった。 ほ場内での発生も限定的で少ないことから病原菌以外によるものであると診断。
10月3日	いちご		高濃度二酸化炭素処理した株について、萎れや枯死株が見られる。	組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。 また、一部 <i>Fusarium</i> 属菌も見られた。 PCRの結果からイチゴ炭疽病と萎黄病と診断。

10月6日	きゅうり	小山市	葉に黄化症状が見られる。	キュウリの主要ウイルスについてPCR診断した結果、CCYVの特異的な増幅断片が認められた。 以上からキュウリ退緑黄化病と診断。
10月7日	アスパラガス	上三川	1年株で葉先が萎れる症状が散見される。	株(地下茎)がないため確定診断は出来ないが、1年株でありながら比較的多くの収穫をしているとのことから、株が弱ったことによる鱗芽の一部衰退ではないかと考えられる。
10月8日	トマト	上三川	一部株で萎れ症状が見られる(ほ場で2本程度)。	維管束等に病徴は認められない。 主根が巻いており(根鉢状態)巻いている部分の根の中心部には、軽微な褐変が見られる。 イムノストリップ(Phy、Rs)は陰性。 組織分離結果でも病原菌等は検出されなかった。 セルの直接定植を行っているとのことで、何らかの原因で主根が根鉢のままとなってしまう、主根の巻いた部分がくびれたことにより萎れ症状が発生したものと診断。
10月9日	ニンジン (愛紅)	小山市	主根の表面に黒色～灰色の不整形で陥没した病斑が見られる。病斑部表面に糸状菌が見られる。	検鏡では糸状菌が認められたが、分生子は確認できなかった。組織分離の結果、特定の糸状菌が高率に分離された。菌叢や菌糸の形態から <i>Mycocentrospora</i> 属菌が考えられ、症状からニンジン黒色根腐病の可能性が高いと診断。
10月10日	いちご		高濃度二酸化炭素処理した株について、萎れや枯死株が見られる。	組織分離の結果 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。 また、一部 <i>Fusarium</i> 属菌も見られた。 PCRの結果からイチゴ炭疽病と萎黄病と診断。
10月15日	水稲 (いのちの巻)	塩谷町	斑点米症状が本品種のみ発生が目立った。 作付面積3.3ha(8ほ場)の全般に発生した。 斑点米は、玄米の2%程度混入した。	ピペットチップ分離法により、シンガレセンチュウの分離を試みたが分離されなかった。 検鏡による加害の様子からアザミウマ類の食害による症状と診断。
10月16日	トマト	上三川	葉が巻いたような株が見られた(5株程度)。 昨年も同様の症状が見られた。	イムノストリップ(CMV)陰性。 生長点及び生長点周辺のわき芽で症状が見られ、下部のわき芽は健全。 経過観察により生長点付近の症状は緩和された。 病害虫によるものではないと診断。
10月16日	いちご	下野市	株が小さく、葉の形状が異常。 根量が少ない。	いちごの主要ウイルスは、陰性。 根の褐変部分を組織分離したが、病原菌等は検出されなかった。 経過観察の結果、症状は改善された。 本症状は、病害虫によるものではないと診断。
10月17日	いちご		高濃度二酸化炭素処理した株について、萎れや枯死株が見られる。	組織分離の結果 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。 PCRの結果からイチゴ炭疽病と診断。
10月17日	トマト	足利市	生長点のつまりが見られることからトマト黄化葉巻病かどうか診断してほしい。	PCRの結果TYLC陰性。 経過観察で生長点のつまりは解消された。 本症状は、何らかの生理障害であると診断。
10月20日	スプレーマム	塩谷町	下葉から枯れあがってきて、ひどいものは生育不良となる。正常なものに比べ、根の張りはやや悪い。今回は圃場全体にポツリポツリと散見されている。症状は消灯後から発生する。	根・維管束ともに健全で病徴等は見られない。 土壌からセンチュウ類が分離されることからセンチュウによる障害と考えられる。

10月21日	トマト	藤岡町	葉の先がとろけるように萎れる。根の張りも悪く生育不良。	イムノストリップ (Phyt、Cmm) 陰性。 根量は少ないものの根、維管束ともに健全。床土ECが2.3とやや高いことや、鉢上げ時に摘心し粒剤施用したことによる障害の可能性が高いと診断。
10月21日	なし (にっこり)		芯腐れ、果肉褐変が見られる。	組織分離及び症状部分の経過観察をしたが病原菌等は確認出来なかった。何らかの生理障害の可能性が高いと考えられる。
10月21日	ニラ (タフボーイ)	茂木町	8月中旬頃～、外葉の葉先が黄変し、枯れる。その株をすて刈りしても、再度同様な症状が出る。ハウス内で部分的に発生。	鱗片基部に軽微な褐変が見られる。組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。本症状は乾腐病の病徴とは若干異なるが、過去に地上部のとろけ症状や黄化の株からも <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたことがある。
10月21日	いちご(とちおとめ)	栃木市大平	10/16に採苗し10/22寒冷紗を開けたところ、黒いしみのような症状が発生していた。しみは小葉から葉柄にかけて発生し、ひどいものは心芽の部分も黒くなっている。ほぼ一様に発生している。	黒変部分の検鏡及び組織分離を行ったが病原菌等は確認されなかった。何らかの障害の可能性が高いと診断。
10月23日	ニラ (ミラクルグリーンベルト)	さくら市	葉が巻き黄化している。ほ場の1～2割で発生。	鱗片基部に軽微な褐変が見られる。組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。本症状は乾腐病の病徴とは若干異なるが、過去に地上部のとろけ症状や黄化の株からも <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたことがある。
10月24日	イチゴ(スカイベリー)	佐野市	定植後の株で青枯症状が見られる。クラウン部には不整形な褐変が見られる。	イムノストリップ (Rs、Phyt) は陰性。組織分離の結果、 <i>Colletotrichum</i> 属菌が高率に分離された。イチゴ炭疽病と診断。
10月24日	イチゴ(スカイベリー) 親株	栃木市	新葉の小型化、奇形。クラウン部に褐変は見られず、奇形用も連続性はない。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。病害の可能性は低く、生理障害と判断。
10月27日	いちご	宇都宮市	炭酸ガスを使用したほ場で赤いハダニ類の発生が見られる。種を教えて欲しい。	検鏡、休眠個体がみられること、雄の体色等からカンザワハダニと同定。
10月27日	リンドウ		ほ場内で広く株が枯死。キノコバエが見られるが確認してほしい。ほ場内ははじめしている。	クロバネキノコバエ属の成幼虫を確認した。ただし、健全株に対する大規模な加害は稀であるため、他の要因により株が弱っていた可能性がある。
10月31日	トマト	宇都宮市	定植後しおれが出て枯れる株が10株ほどみられた。ほ場の西側に発生が多い。連続して発生はせず、ポツポツと点在	病徴及び検鏡結果からトマト白絹病と診断。
10月31日	サトイモ	宇都宮市	8月中旬からほ場東側2うねが黄化しはじめ、やがて地上部はすべて枯れてしまった。	イモ組織のイムノストリップ (Rs) は陽性。ただし、PCR検定では、特異的な増幅断片は認められなかった。組織分離でも病原菌等は、検出されなかった。イムノストリップの反応は、偽陽性反応であり、本症状は病害虫によるものではなく何らかの生理障害であると診断。
11月4日	イチゴ (とちおとめ)	栃木市	萎凋症状、新葉の黄化や奇形。	イムノストリップ (Phyt) は陰性。組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。イチゴ萎黄病と診断。



11月5日	イチゴ (とちおとめ)	佐野市	萎凋症状、新葉の黄化や奇形。	イムノストリップ(Phyt)は陰性。組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。イチゴ萎黄病と診断。
11月6日	イチゴ (とちおとめ)	大田原市	萎縮症状、新葉の奇形。	組織分離の結果、特定の病原菌は分離されなかった。原因の特定はできなかった。
11月7日	シュンギク	下野市	葉の奇形、縮葉。	主要ウイルスは、検出されなかった。症状株を経過観察したが症状の改善は見られない。原因は不明。
11月10日	イチゴ (とちおとめ)	壬生町	萎縮症状、新葉の奇形。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。イチゴ萎黄病と診断。
11月11日	きゅうり	小山市	葉に不明瞭な褐点症状が見られる。	症状及び組織分離の結果からキュウリ褐斑病と診断。
11月13日	ニラ(ミラクルグリーンベルト)	栃木市	新葉の湾曲、黄化、腐敗症状。鱗茎部に褐変が見られる。以前から同様の症状が見られる。	組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。分離菌と症状の因果関係は不明。
11月14日	トマト	足利市	ハウス端の一行で芯葉が黄化し、芯止まりしている株が点在している。ハウスの端には、ラウンドアップを散布	本症状は、病害虫によるものではない。ラウンドアップを吸収したことに伴う葉害の可能性が高いと診断。
11月14日	ダイス(里のほほえみ)	那須烏山市	へその部分が変色している。紫斑病かどうか確認してほしい	変色部分を培養したがバチルス等の細菌が分離され、紫斑病は確認できなかった。原因は不明
11月18日	ファレノプシス	宇都宮市	葉の基部が黒変し、葉が離脱する。茎内部に黒変が見られ、表面に赤褐色の小粒を形成。	検鏡の結果、 <i>Haematonectoria</i> 属菌( <i>Fusarium solani</i> )の分生子が確認された。症状、分生子、子のう殻の形状からファレノプシス株枯病と診断。
11月21日	イチゴ(とちおとめ)	那須塩原市	ハウス内で新葉が小型化し生育が遅れる症状が見られる。	クラウン等に褐変等は見られない。土壌pHが7以上と高かったことから、高pHによる生理障害と診断。
11月28日	シュンギク	下野市	ハウスサイド(畝外側)に数株発生。下葉で多く見られ、茎に病斑等は見られないが、葉腋が黒く変色している。	病原菌等は見られない。経過観察株についても症状の上位葉への進展は見られない。発生場所がハウスサイドに限定されていることから何らかの生理障害であると診断。
12月1日	ニラ	栃木市	10月頃から発生。葉先が黄化し、ハウス全体に症状が見られる。土壌は、かなりの粘土質で、降雨があるとほ場は、浸水する。りん茎部には、ネダニの発生も見られている。	イムノストリップ(Phyt)は、陽性。外観症状を含めニラ白色疫病と診断
12月2日	ニラ(ワンダーグリーンベルト)	茂木町	11月下旬頃から外葉のトロケ症状が見られる。ハウス全体の約3割で発生。土壌水分、ハウス内の湿度は高め。	鱗片基部に軽微な褐変が見られる。組織分離の結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離された。本症状は乾腐病の病徴とは若干異なるが、過去に地上部のとろけ症状や黄化の株からも <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離されたことがある。
12月3日	トマト(麗容)	小山市	ハウス(柱部分)の1列に萎れ症状が見られる。株元には浸み状の褐変、維管束の褐変、根はアメ色に変色している。	イムノストリップ(Cmm)陽性。トマトかいよう病と診断。なお、維管束からは、高率に <i>Fusarium</i> 属菌が分離される。

12月5日	イチゴ(とちおとめ)	栃木市	新葉の展開が弱く(よれている)、小葉がそろっていない。しかし、着果しても萎れる事なく収穫まで進む。	維管束に病徴は見られない。クラウン中心部に軽微な褐変が見られるが病原菌等は確認されなかった。生理障害であると診断。
12月8日	スプレーマム	塩谷町	11月ぐらいから、発生がみられる。植物のやや下段付近の、葉の付け根あたりから黄化し、葉が萎れる。さらに茎も褐変し、最終的に枯れる。根の張りはよく、色も白い。この品種のみに発生しており、ベットの中央部に多い。数年前に農環センターに依頼したようだが、発生原因は特定できていない。	外観症状、組織分離、検鏡結果等からキク茎枯病と診断。
12月15日	トマト	上三川	10月中下旬に疫病かなと思う症状が発生。12月2日にイムノストリップでかいよう病陽性。主に5段より上の葉に症状が出ている。	イムノストリップ陽性。かいよう病と診断。
12月15日	イチゴ	那須塩原市	定植後間もない時期から、炭疽病が発生し、抜き取りを行う。11月以降、萎黄病が多く見られる。ハウスの北側に比較的多い。	維管束の褐変は、部分的で軽微。組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離された。PCR結果も含めイチゴ萎黄病と診断。
12月16日	大麦(サチホーグルデン)	佐野市	圃場全面に葉の中心付近に葉色が抜け黄色く帯状に出ている。ひどいものでは、葉の縁から緋色に変色をしている。圃場外側に、散布した肥料が見られる。	組織分離の結果はバチルス等が分離されたが病原性のあるものはなかった。生理障害や低温障害の可能性。